

岐阜縣出戸鉾山マンガン鉾床調査報告 (宮本弘道)

鉾山名	位置	交通	事業主	鉾床および品質・鉾量	人員	月産 (t)	用途および送り先	備考
北山	額田郡山中村北山	美合駅東方 6 km 山元までトラックを通ずる	杉浦専二	走向 N 75° E, 直立に近い, 厚さ 4m, 可採深さ 5m, 鉾石は白色で不純分少ない, やや粗粒脆弱質 鉾量 一	5	50	硫酸塔用 (50t)	
杉浦	岡崎市保母町	同上 同上	〃	走向 N 65° E, 傾斜 70° N, 厚さ 3.5m, 延長約 80m, 可採深さ 3m 鉾石は粗粒なるも割目, 不純分少ない淡褐色 鉾量 1.5×10 <sup>4</sup> t	5	?	玉石 張石	
北山	額田郡山中村北山	同上 同上	三河珪石 K.K.	杉浦・北山の西に続く, 鉾床開発初期のため厚さ延長不明 鉾石は粗粒, 白色				開発準備中
縣營	岡崎市保母町	同上 同上	愛知縣	雲母薄層をもつて千枚状をなす。珪石の鉾石としては不適當であるが粉碎に容易な雲母石英片岩を粉碎して土木用碎石としているが割れやすく質的に不充分と云われる			碎石	
三栄	額田郡本宿村	本宿駅南方 4 km 山元までトラックを通ずる	三栄銀砂工業所	走向 N 70° W, 傾斜 25~35° N, 厚さ 15m 2層, 下層はがり 10m となり今後可採量少ない。上層は厚さ 10m, かぶりなし, 延長 30m 鉾石は雲母の薄層をもち普通珪石としては不適當であつたが粉碎容易, 上層は千枚状で実收率が高い 鉾量 1×10 <sup>4</sup> t	5	300	人造珪砂(300t) (サンドブラスト用) 自家用→豊田系諸工場	山元に人造珪砂工場あり
幸田	幡豆郡豊坂村野場	東海道線幸田駅西方迂回 4 km 山元までトラックを通ずる	幸田銀砂工業所	走向 N 70° E 傾斜 20° N, 厚さ 15m 以上, 延長約 40m 鉾石, 一部は普通の珪石の低品位鉾(フェロ用)と同等一般に割れやすく雲母薄層をもっている 鉾量 2×10 <sup>4</sup> t 以上	5	200	人造珪砂(200t) 自家用 (サンドブラスト用) →豊田系諸工場 計 フェロシリコン用 1,500t 玉張石用 250t 硫酸塔用 200t モルタル用爐材用 1,200t 人造珪砂用 500t	東海道線幸田駅前に人造珪砂工場あり

553.32 : 550.8(521.53) : 622.19

岐阜縣出戸鉾山マンガン鉾床調査報告

宮本弘道\*

Résumé  
Manganese Deposit at Dedo Mine,  
Gifu Prefecture  
by  
Hiromichi Miyamoto  
Manganese deposit, having anticlinal

form, at the Dedo mine, Gifu Prefecture is found between the Paleozoic silicious slate and "Kuroshiro", compound brick silica stone. The ores, having grades of Mn 25-35% and SiO<sub>2</sub> 20%, are chiefly "Keiman" composed of rhodonite, rhodochrosite etc. with a small amount of tephroitic minerals.

\* 鉾床部

要 旨

昭和26年2月14日より31日間にわたり岐阜縣洞戸地方の鉦床を概査した。その内の出戸鉦山のマンガン鉦床に関する結果を報告する。

1. 鉦 区

鉦区番号 岐阜縣採掘 514  
 鉦 種 マンガン  
 鉦業権者 岐阜市金町5の9 佐野二三郎

2. 位置および交通(第1図参照)

現場の位置

岐阜縣武儀部乾村柿野字本郷  
 越美南線美濃町駅の北西西方 13 km  
 東海道線岐阜駅の北方 22 km  
 1:50,000 地形図 美濃町

現場に至る径路

岐阜駅  $\xrightarrow{\text{バス } 27\text{km}}$  出戸  $\xrightarrow{\text{徒歩 } 3.5\text{km}}$  現場

搬出径路

現場  $\xrightarrow{\text{軽索 } 145\text{m}}$   $\xrightarrow{\text{馬車 } 445\text{m}}$  貯鉦場  $\xrightarrow{\text{トラック } 30\text{km}}$  岐阜駅

3. 沿 革

本鉦山は第二次世界戦争中は山見鉦山として稼行されたが、終戦とともに休山した。この間主として二酸化を出鉦した。昭和25年9月平賀公治に移り、同年12月に現権者の経営に移り、出鉦を始め、現在におよぶ。

4. 地 形

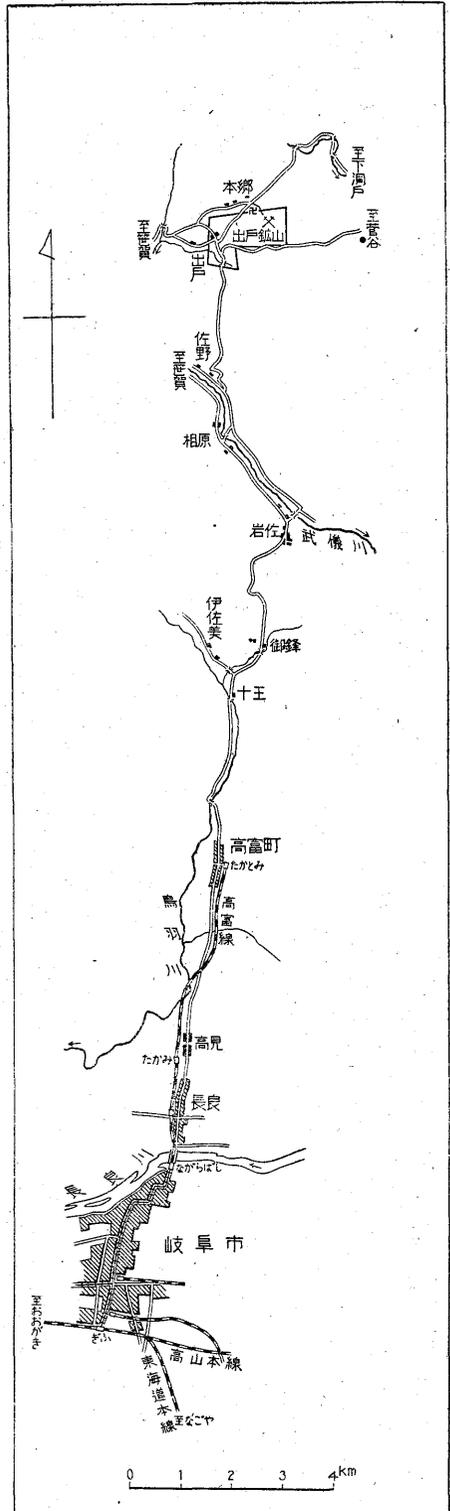
本地域は長良川支流板取川および武儀川の分水嶺を占める。現場は山頂付近にあつて、谷底より約70mの高所に位置する。附近の谷壁は約25°の傾斜をとり、珪質岩類は高さ20m以下の急崖が所々につくられるから、搬出には軽索に依存する必要がある。附近の谷幅広く、平坦地に富むから道路の建設が容易である。現場附近ではほとんど流水を利用することができない。

5. 地質 (第1図参照)

地質は古生層中の粘板岩砂岩層およびチャート粘板岩互層よりなる。走向 N 30°~40°W, 傾斜 30°S である。チャートを伴う地層は小褶曲に富む。チャートは灰色ないし灰黒色にして、千枚岩状のものが多く、マンガン鉦床附近において角礫状灰黒色のチャートとその間を埋める石英細脈とよりなる黒白珪石が見受けられる。粘板岩は片状黒色のものが多く、砂岩は細粒緻密な硬砂岩である。

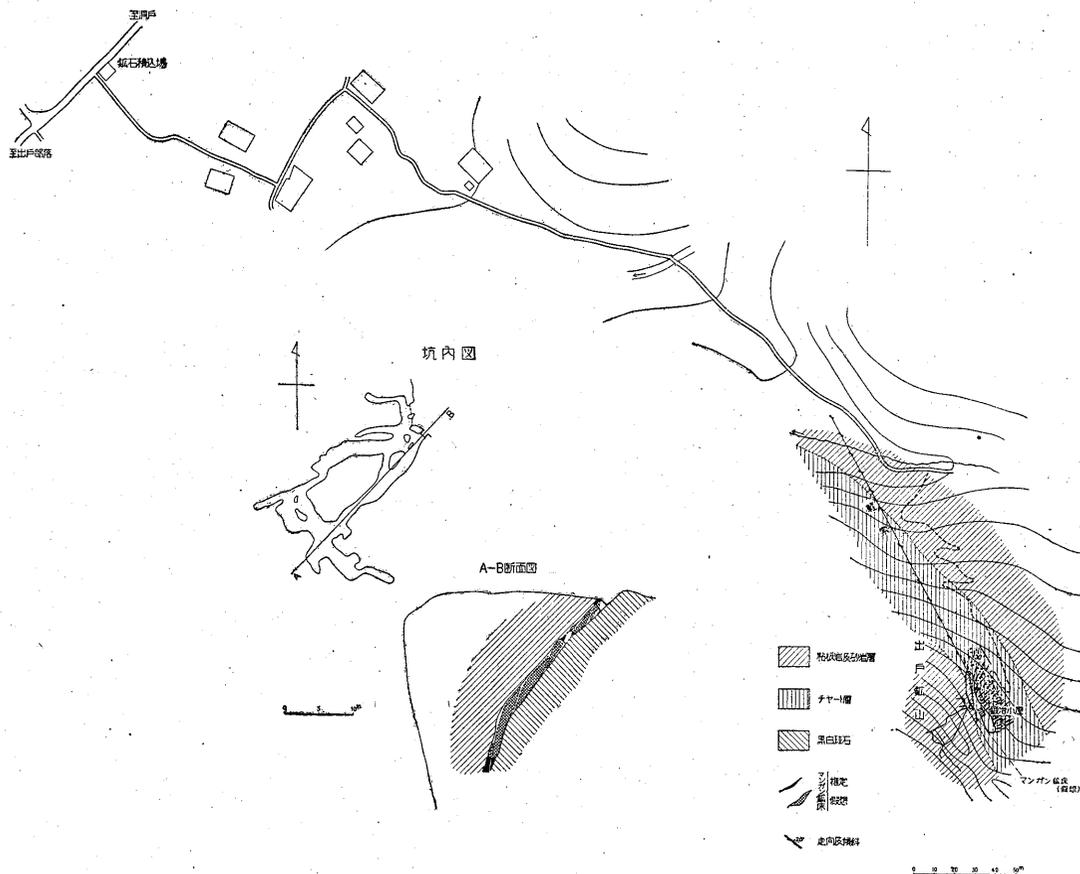
6. 鉦床 (第2図参照)

鉦床は古生層を構成する珪質粘板岩と黒白珪石との接触部に胚胎し、雁行状に配列する小鉦体の集合よりな



第1図 位置交通圖

岐阜縣出戸鉾山マンガン鉾床調査報告 (宮本弘道)



第2圖 地質鉾床圖、坑内圖および A-B 断面圖

り、上盤は粘土化を受ける。走向  $N 30^{\circ} \sim 40^{\circ} W$ 、傾斜  $10^{\circ} N$  または  $30^{\circ} S$ 。鉾床は背斜状形態をとる。坑口は  $10^{\circ} N$ 、南西引立附近では  $30^{\circ} S$  の傾斜をとる。露頭部における延長は 10 m、南西引立附近における延長は 20 m 余りである。最大鑛幅は 1 m、南西引立附近でも 1 m 近くを保ち、かつ下部の小鉾体の頭が露われ、鉾況優勢である。また東西両引立附近の鑛幅は約 0.2 m で鉾況やや劣勢となる。

7. 鉾石および品位

鉾石は露頭部は酸化鉾であるが、南西引立附近では炭溝となる。バラキ・ミツマンの類の中に栗タン・縞アツキ等の良質の鉾石が僅かに混入する。構成マンガン鉾物はバラ輝石および菱マンガン鉾が主で、少量のテフロ石系統の鉾物が混入する。脈石は黄鉄鉾・石英等である。

南西引立附近の見込品位は Mn 30~33%、 $SiO_2$  20% 以上である。

8. 現況

稼行鉾床 1  
 稼行坑道 1  
 選鉾 ズリ抜き程度の子選  
 出鉾

出鉾量	昭和 25 年 12 月	30 kg	} Mn 30%
	昭和 26 年 1 月	30 kg	
	” 2 月	30 kg	
	” 3 月	40 kg	

出鉾先 日本鋼管 K.K. 川崎工場  
 特殊設備 軽索 1 基、延長 145 m  
 労務者在籍数 8 名(内女子 3 名)

9. 結論

鉾床の下部に対して相当期待を置くことができるから、南西引立附近において東西両繩押を行い、延長を確め、坑口より 15 m 下部の位置に立入を開き、下部探鉾を行うべきであると思う。品位の点に関しては探鉾結果をまつ外なきものと思う。

(昭和 26 年 2 月~3 月調査)